

ルカの福音書 12章 4-14節

個々の事情における神の主権

12:4 そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。12:5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。12:6 五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。12:7 それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。12:8 そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。12:9 しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。12:10 たとい、人の子をそしることばを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません。12:11 また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。12:12 言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」12:13 群衆の中のひとりが、「先生。私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください」と言った。12:14 すると彼に言われた。「いったいだれが、わたしをあなたがたの裁判官や調停者に任命したのですか。」

はじめに

10月1日に北アイルランドに帰国してから祈りの中で最初に神様にはっきり示されたのは、神様が人生の全ての事情を完全に支配して下さっているということでした。今日はその事について話したいと思います。なぜ神様はそれを改めて示して下さったかと言うと、「あなたは全く何も恐れる必要はない」と改めて教えてくださるためです。

今日の聖書箇所の中でイエス様は「あなたがたは全く何も恐れる必要はない」と教える目的で、神様の主権と最も小さくて細かい個々の事情について話をしています。

まずは、イエス様の教え、または聖書全体について最も誤解されている事について少しお話ししましょう。この箇所も含めて、イエス様と父なる神様は全く一致して、聖書の言葉を通して人を脅したり怖がらせたりなさるおつもりはありません。残念ながら説教者の中には、自分の都合によって恐れを道具として使い、自分の思い通りに人々を動かそうとする人もいます。しかし、神様もイエス様も恐れを使う必要のない方です。もし使うとしたら、「どんな時でも平安でいなさい」と命じておきながら平安を奪うような事をしていることになってしまいます。それは不可能なことです。ですから以前お話したことをもう一度言いますが、「神様は信仰を通して働きますが、最大の嘘つきである悪魔は恐れを通して働く」のです。信仰と恐れは両立しません。5節に書いてあるイエス様の神様に対する恐れ、とは「怖がる」と言う意味ではなくて、「敬う」と言う意味です。英語で **reverence** という言葉は聖なる存在を敬って崇めるということです。人間を敬うという意味では **respect** という言葉があり区別されます。人間の

世界で respect と fear(恐れ)が混同されてしまう事があるのと同様に、reverence と fear も間違えられてしまうことがあります。

4節には「そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。」とあります。もしも脅すつもりなら、「私の友であるあなたがたにいいます。」と言う表現は使いません。

この箇所を正しく理解すればイエス様の平安が与えられます。神様は主権を持っておられますから、その許しがなければ、何ものも全くあなたの人生に触れる事が出来ないと教えているのです。

神様は日常の生活の中で最も小さい事でさえすべて支配して下さっていますから、日常の事情を通して神様の主権を学ぶ事が出来ます。

では、それを実現するための次の3つの大切な事を見て行きましょう。

1. 日々聖書を読む

マタイ4:4「イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」

イエス様はここで旧約聖書を引用して神様の御言葉を魂の糧として取る必要があると教えられています。これは聖書全体で繰り返して教えられていることです。誰でも、毎日、体の食べ物を摂取するように、聖書から私達の魂の糧として毎日神の言葉を取ることが必要です。一番分かりやすい実例はエジプトの奴隷生活から救出されたイスラエル人の例でしょう。彼らが40年間荒野で旅をしている間、神様は天から食物を毎日降らせました。でも、神は一日分以上に取ってはいけません、と命令しました。それを無視して余分に取った人もいましたが、日持ちしなくて腐ってしまいました。神様の命令の目的は、必ず毎日天からのパンを取る生活習慣を教えるということでした。

私達の場合、毎日聖書を通して神様の導きを求めながら読めば、読んでいる間に何も特別に神様の導きを感じなくても、日常の事情の中で常に働いている神様は、その日に起きる出来事とその日に読んだ聖書の言葉とが一致するようにして下さいます。と言うのは神様が聖書と日常生活の事情を合わせるように働いて下さり、神様の完全な主権を教えると同時に私達の信仰をそれによって成長させて下さるからです。

今日のこのメッセージは、月曜日から考えはじめ、導きを求めていました。その日の朝の祈りの時に、コリント第二の8章を読みました。その時にこれを通して神様は私に何を教えて下さっているかを考えながら読みましたが、何もはっきり示されませんでした。その日の午後、現在2週間の自宅待中の私たちの代わりに買い物をしていてくれる方と電話で注文とその清算の話をしていました。彼は使っているお金を細かく説明出来るように領収書を取ってくれています。私は「そんな手間のかかる事をしなくても、あなたを信用しているから大丈夫ですよ」と言いましたが、彼の返事を通して神様は今朝、私の読んだ聖書の言葉を改めて教えて下さいました。

コリント第二 8:20-21「私たちは、この献金の取り扱いについて、だれからも非難されることがないように心がけています。8:21それは、主の御前ばかりでなく、人の前でも公明正大なことを示そうと考えているからです。」

もちろん、私は前からこの聖書の言葉を知っていましたが、神様は実際の状況によってその意味を裏付けて下さると同時に、日常生活のすべての細かいところまで関わって下さっているという事を改めて教えて下さいました。

2. 日々の祈り

ピリピ4:6-7「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

神様の平安の中で心と思いが守られる為には祈ることが条件である、とはっきり書いてあります。祈らない人は神の平安を知ることが出来ません。その理由の一つは、神様が常に自分の日常生活の中で働いておられるのにそれに気が付かないでいては、正しい視点を持つ事が出来ないからです。毎日、常に感謝を持って自分の願い事を神様に祈らなければ、自分の状況が急に変わってしまったら、クリスチャンでも神様の平安を失い、パニックや恐れに陥ってしまう事があります。神様はいつも主権を持っておられるという視点を持つ為に、祈りが必要なのです。次の聖書箇所で見ることが出来ます。

詩編73：17「私は、神の聖所にはいり、ついに、彼らの最後を悟った。」

この詩編は長いので全部読む時間はありませんが、簡単に言いますと、神様に従わない人々を自分と比べ、大きな不満を感じて深く落ち込んでいる人について書かれています。自分と比べて彼らは苦勞せずに楽な生き方をしているように見えていましたが、神様の聖所に入った時に彼は正しい視点を与えられました。つまり、神様に近づく事によって正しく見えるようになったのです。

ヤコブ4:8「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい」
私達は特別な聖所に入らなくとも、イエス様によっていつでもどこでも祈る事が出来ます。祈る事によって神様に近づけば、神様はこの聖句の約束通りに私達に近づいて下さいます。神様に近づけば近づくほど正しい視点を与えられます。まずは感謝をすることによって神様が自分の為にして下さっている事を思い出し、その事によって信仰を燃え立たせるのです。祈りたくない時もありますから、これは自然に起きるのではなくて自分の意志でしなければならぬことです。祈らなければ何も与えられないと言う意味ではありません。既に与えられている物でも、それが神様から与えられている事に全く気が付かないなら、正しい視点を持っていないのです。感謝の祈りを自分で思い浮かばなければ、次の聖句の中から、感謝し始める事が出来るでしょう。

詩編103:2-5「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。103:3 主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし103:4 あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、103:5 あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、わしのように、新しくなる。」

3. 日々の明け渡し

ローマ人12:1-2「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

2週間前のメッセージでブラッド兄弟もこの箇所を引用されていまして少し重なりますが、ここに書いてある「あなた方の霊的な礼拝」とは週に一回の礼拝の意味ではありません。イエス様の信者が毎日神様を礼拝するのは、当たり前で常識のような事です。その為に毎日聖書と祈りの時を持つのです。神様を礼拝することの大前提は、自分の意志を神様の御心に服従させる事です。イエス様がゲッセマネの庭で「私の思いのままではなくて、あなたの御心のままにしてください。」と祈ったように。これは、信者の全ての祈りの大前提です。その為に自分の体を神様に明け渡したなら、神様はきよめられた生きた供え物として受け入れて下さいます。

その結果が次の2節に書いてあります。「心が一新される事によって変えられた人」として私たちはこの世と違う生き方をして神様の御心をわきまえ知るようになります。ここには神様の御心をわ

きまえ知るといふことの意味も説明されています。「神の御心は何か、すなわち、神様の目から見て何がよい事で、何が神に受け入れられる事か、神様の目からみて何が完全であるか」をきまえ知る事が出来るようになります。私達にとって神様の御心が分かりにくい一番の原因は自分の意志が邪魔をするという事です。神様にそれを明け渡したら、何も邪魔する物がなくなり、御心がはっきり見えるようになります。これはイエス様の一番有名な山上の垂訓の言葉の中に含まれています。

マタイ5:8 「心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。」

死んでから初めて神様を見るのでは遅すぎます。その人は救い主としてではなくて、最後の審判で裁判官としての神様しか見ることができません。私たちはこの地上で、イエス様を通して神様を見る事が出来ます。イエス様はこうおっしゃいました。

ヨハネ10:30 「わたしと父とは一つです。」

ヨハネ14:9 「イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか。」

イエス様を通して自分を神様に明け渡したら、日常の小さな事情の中でも、神の主権が見えるようになります。

なぜ、神様はそのような働き方をされるのかと言いますと、私達個々の日常の事情を通して、神様の主権に信頼にする事を教えて下さるためです。

まとめ

私が毎朝読んでいるデイリーデボーションの本の11月2日（月）の解説に次の言葉が書かれています。

「私の生活は日々、小さくどうでもいいような出来事であふれているかも知れない。でも、偶然に見える生活の状況の中でイエス・キリストに従うなら、それらは神様の顔を覗き見る沢山の小さな穴となる。」